

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>昨年末に、理念を検討しホーム独自の理念と基本姿勢を作り上げた。</p>	○	<p>利用者中心のケアと地域との関わりを大切に作り上げたので、今後は少しでも日々実行できるように職員全員で取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>共有し、実践できるように毎朝申し送りの時に読み上げている。</p>	○	<p>理念を実践する為に、ケース検討会や勉強会をしているが更にスタッフの意欲や向上を育てていく必要がある。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの玄関先に掲示しているほか、運営推進会議で家族や地域へ理解してもらえように取り組んでいる。</p>	○	<p>地域住民への理解を得る為にはもっと広報活動が必要なのではと感じている。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の付き合いあり、気軽に寄って遊んでいかれる方やお話や様子を見に来て下さったり、何かとお手伝いして下さったり、収穫物などをもらったり、やっつりの付き合いがある。</p>	○	<p>隣近所の付き合いがもっと広範囲になるように努力していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎月定期的な交流会で地域との関わりを大事にしている。地域からは運動会に誘っていただいたり、子供クラブの行事によんでいたいただいた事もある。他施設の夏祭りに参加したり、年1回棚田コンサートを開催し、地域のボランティアを依頼し歌と踊りを披露。他グループホームや多くの地域の方に来ていただいている。</p>	○	<p>地域の一員として交流を検討しているが、区や民生委員の協力が得られないため苦慮している。行政に協力依頼している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月の介護相談日を継続している。先日、住宅改修の件で相談があり、助言し、関係機関に依頼した。	○	介護相談日を設けているが、もっと広報が必要である事と地域との関わりを増やす事が必要である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営・管理者は理解し、改善に取り組もうとしている。職員は外部評価・自己評価の意義は理解しているが、難しい分らないとの意見が出てなかなか評価改善につながらない。評価できても改善策が出ない。	○	職員全体の質の向上に努めるために、評価の意義を理解し改善策に取り組めるように話し合いの場を設けたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの様子を話し、地域に知って頂くよい機会となった。サービスの向上にはつながっていない、活かすことが出来ていない。しかし老人会長の参加で地域との関わりで一步前進。	○	サービスの向上につながる意見が出ないと言う事は、認知症の利用者の理解がなされていないと言う事なので、もっと認知症ケアの理解を知っていただく為の活動が必要だと感じる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外に行政が行き来する事はないが、ホームの方から広報誌を毎月送付したり、分からないような事があつたりしたら相談したりホームの方から働きかけている。	○	ホームとしては、運営推進会議以外にもお願いしたいが行政のほうが消極的と感じる。共に質の向上に向けて努力できるように検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会はあるが職員はその機会が無い。必要な時は活用し支援していく方針だが、なんとなく難しい感じがして実際に関わってみないと理解しにくい。必要な方には活用していく。	○	グループホーム同士の交流会で話し合うことはある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に事業所内で話し合う機会はないが、新聞やテレビ等で虐待の問題がでた時などは、申し送りの時や勉強会などで問題を取り上げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者の思いや訴えはいろいろあるが、それをただの性格としてとらえず真剣に対応する心を養いたい。認知症の理解を深める。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	利用者に対して又はホームに対して、こうすればもっと良くなるのではという向上心・意欲がいまひとつである。皆が協力してグループホームのお手本になるようなそんな意気込みがほしい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	利用者や家族の対応のために職員の時間帯の確保は、小さなグループホームの運営状況からは難しいものがある。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	他施設の報酬単価を知り、標準以下にならないように調整し、職場の雰囲気をよく出来るように職員の意見を聴いたり環境を作ったり、利用者が負担にならないように気をつけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今ひとつ努力不足である。研修費が高い・少人数の職員で勤務のやりくりをしているので研修時間がとりにくい。1人で行くのは嫌だとか難しいからの意見が出る。長期で研修にやってもすぐに辞められてしまっは何の為に研修に出したのか意味が無い。	○	無料参加や地域での講演やゼミなどへの参加を呼びかけている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年三月から、グループホーム同士の交流会を毎月開催している。お互いのグループホーム見学をしたり改善点をはなしあったりしている。	○	現在9事業所が集まっているが、もっと多くの事業所が各地区で交流会でできればよいと思う。毎月の広報誌上でも他事業所の参加を呼びかけている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会をしたり、職員の急なやすみの時や体調によっては、運営者又は管理者が業務に入ったりして職員のストレスの軽減を図っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修資料や資格を取るための情報提供や介護に関する本をおいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までの間に、ご家族と本人に会い聴き取りをして状況把握し、ホーム入居1週間は特に関わりの機会を多くとり利用者との信頼関係を築くように図っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族への状況報告を通常より密にとっている。又家族からの要望意見が出やすいように面会の折には、何か不安な事や気付いた点などは無いか尋ねている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、本当にグループホーム入居が必要なのか、家族・本人の状況を見極めて、必要な利用者を優先的に対応し、他のサービス等も含めて介護保険等についても説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまで特に問題なくなじみながらのサービス対応者はいないが、今後の利用者で必要があれば対応していく。	○	開所して三年が経過した事により、共有スペースを利用して三名の利用者がデイサービスできるので、馴染みながら入居につながるケースも増えるのではないかとと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護を意識せずに、お互い支えあう気持ちで自立を促し、人生の先輩として尊敬しながら、日々を家庭的に喜怒哀楽を自然に出せるようにケアさせていただいている。	○	人生の先輩として尊敬する事を忘れずケアさせていただきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に支えあえるように、必要があれば面会の依頼や帰宅や電話の依頼ほか、利用者本人が安心できる生活が出来るようにお願い事をする事がある。家族会の開催で一緒に支えあう関係を築こうとしている。	○	運営推進会議や家族会など家族の参加をお願いすることも多いが参加者が少ない。どうすればよいものかと思案している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者本人の思いを察して、「本当は、こんなに家族のことを心配されているようですよ」とか「こんな事を言われてましたよ」と代弁者になる。	○	家族の関係がより良くなるように支援して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を知り、馴染みの人や場所などのお話をしたりしている。又時には馴染みだった場所に出かけたりして支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立又は孤独にさせないように、利用者の中に入りお互いの関わりがうまくいくように、共同作業やレクをしたり、仲介に入り利用者同士を離したりする。又お互い支えあうように、利用者利用者のお世話をお願いしたりお手伝いしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所なさった利用者のご家族には、継続してホーム便りを毎月郵送している。又退所しても何かお困りの事や相談などいつでもお越しくささいとお話している。他施設に行かれた利用者を訪ねて面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを知るように努力し、個性を大切に個々に合わせたケアが出来るように努力している。外出や買い物好きな方は度々お連れしたり、喫茶店に寄りかかっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に、家族や本人から話を聴きある程度の生活歴等をする。その後利用者本人から少しずつ聞いていったり家族や知人の面会のおりに聞いたりする事もある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの心身の状況に合わせて、散歩の必要な人や機能訓練や硬縮予防の必要な人、休息の必要な人、調理の補助をする人など個々の現状を把握しケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本意の介護計画を立てているが、チームで作る事が出来ていない。	○	家族の意見を聴いているが意見が出ない。職員の意見や提案が出るような機会はあるが利用者のためのカンファレンスを開いていないので出来るように検討していきたい。先ずは時間の調整が必要。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画は出来ているが、書面になるのが遅くなる。	○	必要な関係者との話し合いの機会を作るように努力し、早めに書面にし全員が同じ目標でケアが実行できるように努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容室、外食、買い物に行ったり、仏壇(お位牌)持参の方は、お花を変えたり水を替えたりお盆や彼岸・正月の供え物を置いたり自宅に居た時のような環境を作り柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できていたりできていなかったりである。民生委員、区長の協力が無い。公民館長や老人会長、一部近隣住民の協力はある。	○	区長、民生委員の協力が得られるように度々出向いたり、行政に働きかけてもらえるようお願いしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとの関わりは持っているので必要があれば支援できる体制はある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、問題としてあがっていないのでなんともいえないが、地域包括支援センターとの関わりは持っているので必要があれば協働して行きたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が必要であれば柔軟に対応して行きたいが、特に問題が無ければホームのかかりつけ医に変更していただいている。どうしても必要な時は、業務に支障が出ない程度に家族との調整を図り支援している。ホームの主治医で一本化しているので医師との連携が図られ時間の無駄が無く状態把握できベストな状況である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護のために、職員から秘密保持の同意書を取っている。言葉掛けは難しい些細な言葉が相手を傷つけることもあり相手のみになって、相手の思いを知ることと理念の中の基本姿勢に取り入れている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症だから分からないではなく、認知症だから相手に分かるような説明を行い納得していただけるようにそして自己決定を尊重するような支援を心がけている。	○利用者への説明のしかたが下手である。認知症だからとか性格だからと言ってしまう事があるので、注意していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まり、日課はあるが、一人ひとりのペースを大事にしたいので、本人の希望で外出したり、休んでいたり希望にそっている。その人らしい暮らしを大事にしつつ、心身の維持が図れるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時や交流会の時には化粧をしたり身だしなみを整えたり、美容室でのカットや髪染めほか好きな場所へ行ったりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑に行き収穫し、調理の準備や配膳・片付けもできるだけ一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒すると止められない人が居て暴言になるので控えた。他の飲み物やおやつに関しては、疾患により制限されている人意外はまずまず自由に日常的に楽しんでいる。ただ体重増加の著しい方に関しては本人に分からないように少なくしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄チェックをして排泄パターンを把握するようにしている。歩行障害のある方でも出来る限り歩行してもらい早めのトイレ誘導で失敗をなくしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間は決まっている。しかし無理な誘導はしないで本人が望んで入浴なさるようにタイミングを見て言葉掛けをしている。結構大笑いしながら楽しみながら入浴なさっている方も居る。利用者に合わせてシャワー浴だったり、入浴日以外や自立の方は夕食後でも希望されれば可としている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調や年齢的なこともあり、居室で1人ゆっくり休まれる事もあれば、和室で数人とお昼寝なさることもあり。寝ていると「怠けている仕事もしないで」と暴言を吐く利用者も居るので、そっと居室に誘導したりご本人が気持ちよく休息できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとり性格やこれまでの生活環境の違いから毎日全員にという訳には行かないが、書く事の好きな人・外出好き・遊びの好きな人・草取りの好きな人・調理の好きな人・散歩の好きな人・お世話好きな人・活け花・お点前など支援するように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、自分の財布から支払ってもらうようにしている。お金を持っていてもトラブルにならない方や持っていたい人には、家族にお願いしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんどの方が誘っても外出を拒む方が多い。しかし外出の好きな方はその日の気分や希望、表情態度を見ながら、散歩や買い物他外出の支援をしている。なかなか動こうとしない、外出を嫌う方へは必ず散歩に誘っている。	○	毎日、外出したい方がいる。外出しないと帰宅願望になる。気分転換で帰宅願望がなくなるので、毎日でも外出の支援を続けていきたいと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者へ聞いたりにして、行ってみる事がある。例えば以前住んでいた所や郵便局でどうしても確認したい事があるといわれ家族の了解を得てお連れした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会を作ったり、電話を希望されれば掛けていただいたり掛けて差し上げている。しかし家族の拒否があればそれなりに対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会があった場合は、居室や座敷にお通している。ゆっくり過せるように、椅子や座布団、お茶とお茶菓子を出している。居室には畳があり、居間には座敷もあり畳でのお客様への対応は、「つい長居してしまった。」「ここはゆっくりしてしまいませね。楽しかあ」の言葉が多く聴かれ、「ここは居心地よかもんね。」と言われる	○	これからも、誰からも居心地良いといわれるホームでいたいと思っています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているかどうかは、分からないが、身体拘束をしないケアに取り組み、それがどういうものかはその時々話している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関他にかかる事は全く無い、何処でも全開。利用者は出入り自由でいつでも散歩いつでも畑にいつでも買い物に行ったりしている。付いて行く事さえ拒否される事もあり、見守り強化しコソソリついて行く事もある。	○	今後も、開放感のある利用者にとって自由な環境を提供していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の自由尊厳を守り、否定せず、静止せず見守りながら安全に配慮しながらケアに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生花の好きな方は、花きりハサミを持たれているし、通常のハサミを持っている方もいる。調理の時や果物の皮をむく時など自分で台所から包丁を持ってきて使用される方もいる。夜間は、利用者の分からない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルの作成、年2回の火災訓練ほか日々の申し送りやミーティングで個々の状態に応じた事故防止を話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアル作成や事故発生等の対応について話す機会がある。	○	実際には、看護師が処置対応する為看護師のいない時など適切な処置になっていないこともあり、今後の訓練指導が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣近所との関わりを作り協力が得られるように努力している。	○	隣近所だけでなく、地域の皆さんとの関わりを多く持つように区への協力体制を確保したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時や状況報告をする際に起こり得るリスクはお知らせしている。リスクはあっても抑圧しないような対応をとっていることもお話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、個々の体調の変化や対応など情報の共有が出来、一目で分かるようにチェック表や連絡ノートを使用し日々の申し送りにいかしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が理解できるように、目に付きやすい場所に薬の名前や作用・用量ほか、いつ開始になったり中止になったかなど記載したものを貼り出している。分からない事があればすぐに看護師に連絡をとる体制にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック。排便確認が数日できなかつたり便秘や下痢の方に対しては、食事・水分・運動・薬の調整など行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立していない利用者に対して、言葉かけしここに応じた支援をしている。拒否の強い方にもあきらめずにタイミングを見て言葉かけしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあわせて食べる量や刻み食・粥などを調整している。栄養バランスは勿論水分も適切に摂って頂けるように、水分補給を促し夜間はペットボトルのお茶を渡している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行と、調理器具の消毒など行い、新鮮な食材の確保の為当日又は2日に一度に買い物するなどしている。生物は冬場に出すなどして食中毒には十分注意している。利用者の調理手伝いでも手洗い励行させている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は安全に誰でも出入りできるように、スロープになっている。又建物周囲も段差がない。気軽に言葉かけによっていただけるように、開放的に戸を開け縁側やテラスからも地域の方が言葉かけてくださっている利用者も自由に出入りしている。花壇には季節の花を咲かせている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には光が差し込むように天窓がある。玄関や座敷・床の間や食卓のテーブルには利用者が散歩に出て摘んできた季節の花を飾っている。小鳥の音が聞こえ風が吹き込み快適な空間を作り上げている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座敷があり、共用空間の中にも面会者との会話やお昼寝の場所や気の合ったもの同士の居場所にもなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	お仏壇やお位牌、使い慣れたタンスに小物や写真など生活 観のある環境を作り出すように努力している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	冷暖房は温度計湿度計を置き外気との差があり過ぎないよ うに又職員に合わせた室温にしないようにしている。出来るだ け自然の風が入るように開放的にしている。利用者の状況に 合わせて衣服の調節や居室の温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下・浴室・トイレの手すりは、利用者の自立を促している。 座敷は利用者の起位動作を継続させるものである。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々との関わりを大事にし、個々にあったケアに心がけてい る。食事はゆっくり本人のペースで取ってもらう。お世話の好 きな利用者には他者の受診介助に付いてきてもらい優越 感。書く事が好きな利用者宛に宛名書きや手紙・作詞をお願い する。盛り付けを手伝わせる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	畑の野菜収穫・庭の草取り・お花の手入れ・テラスでのくつろ ぎ・洗濯物干しや取り込みが出来る。テラスや外に椅子を置 いている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)